

道の駅を“学びの場”に

「ミニ防災セミナー」等開催計画 実施要領

平成 26 年 3 月 4 日

特定非営利活動法人 人と道研究会

開催趣旨

東日本大震災から間もなく3年。さらなる東北復興が期待されておりますが、一方では巨大地震の切迫も予測され、国民の不安は続いています。

わが国では古来、宿命的な自然災害が繰り返されてきましたが、先人たちは営々と脆弱国土への働きかけを絶やさず、四季織りなす美しい自然の恵みも活かして今日の繁栄を築き上げてきました。豊かな時代に生きる私たちには、安全で健康で快適な国土を次世代に継承する責務があります。

NPO人と道研究会ではそうした趣旨にご賛同いただきたいと、平成17年に創刊し全国の道の駅で無料配布している「道21世紀新聞」(ルートプレス)を通じて国土や道路の安全、防災、環境、地域振興等の重要性を積極的に報じ、「災害常襲列島」への不慮の備えが大切であることを訴え続けてまいりました。

特に、平成16年の新潟県中越地震の際、被災地と周辺の道の駅が避難や救援、復旧に活躍したことを創刊準備号段階で特集して以来、地域振興の拠点である道の駅を防災問題等の“学びの場”としても活用することが有意義とわかりました。このため平成22年から国土交通省、地方公共団体等と連携し「ミニ防災セミナー」を開催しましたが、それから間もなく東日本大震災が発生したのです。

そこで平成24年末、全国「道の駅」連絡会の設立時に岩手県遠野市で開かれた道の駅のあり方等を話し合うシンポジウムの席上、こうした道の駅学び場案を披露し、ご賛同を得たことを受け、25年6月に千葉県南房総市の道の駅「和田浦WA・O!」 同10月に高知県香南市の道の駅「やす」で同様のミニ防災セミナーを開催しご好評いただきました。

今後も引き続き、ご一緒に活動いただけます道の駅で順次同様のセミナーを開催する計画ですが、地域の状況に応じてテーマを地域連携、伝統、観光などにも広げ、体験型イベントを取り入れたりすることも考えております。各位のご協力を賜ることができますようお願い申し上げます。

道の駅を“学びの場”に、実施計画

1. ミニ防災セミナー

多様な人々が自由に入出入りする道の駅は、休憩・情報発信・地域連携という本来の機能以外に、地域防災の拠点として新たな役割を果たすことが期待され、また、地域特有の自然、歴史、伝統、習俗、芸能など様々なものを学ぶ場としてもふさわしい機能を備えている。

東日本大震災以来、特に防災に対する国民の関心が高まっている折、地方自治体、防災関連行政機関等が積極的に道の駅に出向き、有識者やNPO等の協力も得て、脆弱な国土の災害危険度、防災の基礎知識、避難方法などを身につけてもらうセミナーを実施する。

- タイトル：学ぼう！ 災害への備え
- 場 所：道の駅「もてぎ」（栃木県茂木町茂木）
- 日 時：平成26年3月16日(日)13:30～15:30
- 主 催：道の駅「もてぎ」、関東「道の駅」連絡会、
特定非営利活動法人 人と道研究会
- 後 援：国土交通省関東地方整備局、全国「道の駅」連絡会、栃木県、茂木町
- 協 賛：公益社団法人国土緑化推進機構

▽プログラム

- 1 開会の挨拶 (13:30～13:35)
関東「道の駅」連絡会事務局長
 - 2 後援の挨拶 (13:35～13:40)
国土交通省関東地方整備局
 - 3 講演 ① (13:40～14:15)
「地域の拠点、道の駅の防災時の役割は？」
古口達也 茂木町長 (道の駅「もてぎ」駅長)
前・全国「道の駅」連絡会副会長
 - 4 講演 ② (14:15～14:30)
「日ごろから防災への備えを」
栃木県県民生活部消防防災課
斉藤哲夫 危機管理・災害対策室長
 - 5 講演 ③ (14:30～14:45)
「栃木県の森が地域を救う」
公益社団法人とちぎ環境・みどり推進機構
加藤俊夫 理事長
 - 6 協賛の挨拶 (14:45～14:50)
公益社団法人 国土緑化推進機構
青木正篤 常務理事
 - 7 閉会の挨拶 (14:50～14:55)
関東「道の駅」連絡会事務局長
- *見学会（希望者） (15:00～15:30)
「町有林活用による地域の安全、健康、環境確保 茂木中学校」

以上

2. パネル展示 同時開催

「大震災の記憶と防災・減災展」

東日本大震災をはじめとする災害は多くの人命、資産を奪い、無残な爪痕を残しました。太古から繰り返される地震、津波の悲劇と、「二度と繰り返してはならぬ」との熱い願いからそのつど各地に建てられた津波記念碑。こうした先人の思いを継承し、被災経験・教訓を後世に伝えていくため、震災伝承パネル、被災前後の衛星写真パネル等を各地の「道の駅」で展示します。

この度、東日本大震災の記憶とともに、私たちはこのような大規模災害にどのように立ち向かえばいいのかを共に考える、防災・減災展として、道の駅「もてぎ」で開催いたします。

パネル等は津波の威力、震災被害の深刻さとともに、復旧には迅速で国ぐるみの総合策が必要なことを訴えており、地域住民への危機意識、連帯心づくり、備えへの呼びかけ効果を高めます。

- 主催者：道の駅「もてぎ」、関東「道の駅」連絡会、
特定非営利活動法人 人と道研究会
後 援：国土交通省関東地方整備局、全国「道の駅」連絡会、栃木県、
茂木町

- 展示内容 ・ A 1 パネル スペースに合わせて選定
 ・ タイトルスタンド

- 開催期間 平成 26 年 3 月 9 日搬入
 平成 26 年 3 月 10 日～3 月 16 日

3. 森の役割を学ぶ写真展

「蘇る山々の緑 ～日本の森林いま むかし～」

国土の約7割が森林におおわれている日本は「森林大国」ですが、外国産材の進出、後継者不足等による林業衰退が各地に広がり、道の駅周辺でも危機的様相を呈します。

その一方、国民の自然志向が高まり、地球温暖化防止に対する役割の再評価も進みました。

「ルートプレス」は、地域緑化推進委員会、公益社団法人国土緑化推進機構、各地の道の駅と連携し、森林の保全・再生による災害防止、地域振興への協力、地球環境への貢献を目指して、道の駅で森林の役割について学べる巡回写真展も開催しています。

■ 主催者：特定非営利活動法人 人と道研究会、公益社団法人 国土緑化推進機構

共 催：道の駅「もてぎ」

後 援：林野庁

■ 展示内容 ・約A1パネル 26枚の中からスペースに合わせて選定

・タイトルスタンド（収納式）

・「地域の緑と地球環境を守る」ことの大切さを普及するための小冊子

・緑の募金箱 1～2個

■ 開催時期 平成26年3月25日～平成26年4月10日（予定）